

令和5年度 第1回認知症施策事業推進委員会
次 第

日時 令和5年6月14日（水）午後7時から

場所 Web会議及び小金井市役所第二庁舎801会議室

- 1 開会
- 2 委員自己紹介及び事務局出席者紹介
- 3 委員長及び副委員長選出
- 4 会議録の作成方針
- 5 議題
 - (1) 認知症施策事業推進委員会について【資料1】
 - (2) 令和4年度認知症施策事業の実績報告について【資料2】
 - (3) 令和5年度認知症施策事業の実施予定について【資料3・4】
 - (4) 認知症講演会について【資料5】
- 6 その他
- 7 閉会

【配付資料】

- (1) 認知症施策事業推進委員会について
- (2) 令和4年度における認知症関連事業の実施実績
- (3) 令和5年度における認知症関連事業の実施予定
- (4) 令和5年度認知症地域支援推進員予定表
- (5) 認知症講演会昨年度実績等

認知症施策事業推進委員会について

令和5年6月14日

- 1 国や市の認知症施策に関する動向等
- 2 市の高齢者人口・認知症有病者等推計
- 3 これまでの検討経過・実績等について

1 国や市の認知症施策に関する動向等

(1) 認知症施策大綱（令和元年6月18日認知症施策推進関係閣僚会議決定）

- ・ 認知症の進行に応じた5つの具体的な施策や、その達成のために必要な数値目標、目指すべき社会像等が示されており、我が国の認知症施策における基本となるもの。
- ・ 「認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら**「共生」**と**「予防」**※1を車の両輪として施策を推進」を基本的考えとする。

※1 「予防」とは、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味。

認知症施策推進大綱(令和元年6月18日認知症施策推進関係閣僚会議決定)(概要)

【基本的考え方】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら

「共生」と「予防」※1を車の両輪として施策を推進
 ※1「予防」は、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味

世界の認知症戦略

世界各国において、政府による認知症戦略策定が進展

英国
 ○国家認知症戦略
 ・2009年に国家認知症を5年計画として発表、2015・2011年に国家アルツハイマー計画法が署名され、年に2020年までの新たな戦略を発表。

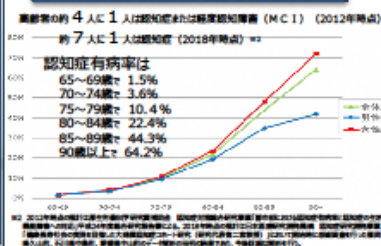
米国
 ○国家アルツハイマー計画法に基づく計画
 ・2011年に国家アルツハイマー計画法が署名され、2012年に同法に基づく計画を発表。

フランス
 ○神経変性疾患に関する国家計画
 ・2001年に認知症国家戦略を策定、2014年から神経変性疾患全般に関する新たな戦略として策定。

オーストラリア
 ○認知症に関する国家構想
 ・2005年に認知症に関する国家構想を策定。現在は2015年から2019年までの計画期間中

上記のほか、韓国、インドネシアなどアジア各国でも国家戦略の策定などの取組が進められている。

我が国の認知症有病率等について



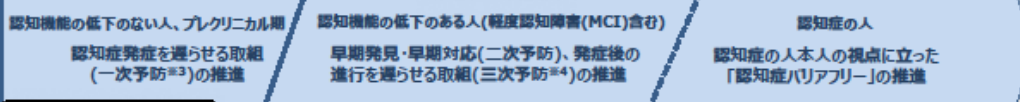
コンセプト

○認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることも含め、多くの人にとって身近なものとなっている。

○生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しつつ、周囲や地域の理解と協力の下、本人が希望を持って前向き、力を活かしていくことで、力を減らし、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる社会を目指す。

○運動不足の改善、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の予防、社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持等が、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防に関するエビデンスを収集・普及し、正しい理解に基づき、予防を含めた認知症への「備え」としての取組を促す。結果として70歳代での発症を10年間で1歳遅らせることを目指す。また、認知症の発症や進行の仕組みの解明や予防法・診断法・治療法等の研究開発を進める。

具体的な施策



① 普及啓発・本人発信支援

- 認知症に関する理解促進
- 認知症サポーター養成の推進
- 子供への理解促進
- 相談先の周知
- 認知症の本人からの発信支援
- 認知症の本人がまとめた「認知症とともに生きる希望宣言」の展開

② 予防

- 認知症予防に資する可能性のある活動の推進
- 民間の商品やサービスの評価・予防に関するエビデンスの収集の推進
- 認知症の予防に関する取組を実施している企業等の認知症度や表彰
- 商品・サービス開発の推進
- 金融商品開発の推進
- 成年後見制度の利用促進
- 消費者被害防止施策の推進
- 虐待防止施策の推進
- 認知症に関する様々な民間保険の推進
- 違法行為を行った高齢者等への福祉的支援

③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

- 早期発見・早期対応、医療体制の整備
- 医療従事者等の認知症対応力向上の促進
- 医療・介護の手法の普及・開発
- 介護サービス基盤整備・介護人材確保
- 介護従事者の認知症対応力向上の促進
- 認知症の人の介護者の負担軽減の推進

④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

- バリアフリーのまちづくりの推進
- 移動手段の確保の推進
- 交通安全の確保の推進
- 住居の確保の推進
- 地域支援体制の強化
- 地域の見守り体制の構築支援
- 見守り・探察に関する連携
- 地方自治体等の取組支援
- ステップアップ講座を受講した認知症サポーターが認知症の人やその家族への支援を行う仕組み(チームオレンジ)の構築
- 認知症に関する取組を実施している企業等の認知症度や表彰
- 商品・サービス開発の推進
- 金融商品開発の推進
- 成年後見制度の利用促進
- 消費者被害防止施策の推進
- 虐待防止施策の推進
- 認知症に関する様々な民間保険の推進
- 違法行為を行った高齢者等への福祉的支援
- 若年性認知症支援コーディネーターの体制検討
- 若年性認知症支援コーディネーターのネットワーク構築支援
- 若年性認知症コールセンターの運営
- 就労支援事業の実態把握等
- 若年性認知症の実態把握
- 社会参加活動や社会貢献の促進
- 介護サービス事業所利用者の社会参加の促進

⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

- 認知症発症や進行の仕組みの解明、予防法、診断法、治療法、リハビリテーション、介護モデル等の研究開発など、様々な病態やステージを対象に研究開発を推進
- 認知症の予防法やケアに関する技術・サービス・機器等の検証、評価指標の確立
- 既存のコホートの役割を明確にしたうえで、認知症発症前の人や認知症の人等が研究や治験に容易に参加できる仕組みを構築
- 研究開発の成果の産業化とともに、「アジア健康構想」の枠組みも活用し、介護サービス等の国際展開を促進

目指すべき社会

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会

主なKPI/目標

① 普及啓発・本人発信支援

- 企業・地域型の認知症サポーター養成数400万人
- 認知症サポーター養成数1200万人(2020年度)
- 世界アルツハイマーデー及び月間における普及・啓発イベント等の開催
- 広報誌やホームページ等により、認知症に関する相談窓口の周知を行っている
- 市町村100%
- 認知症の相談窓口について、関係者の認知症2割増加、住民の認知症1割増加
- 認知症本人大賞(希望賞大賞(各務))の創設
- 全都道府県においてキャラバンメイト大賞(各務)の設置
- 全都道府県においてピアサポーターによる本人支援を実施

② 予防

- 介護予防に資する適切な場への参加率が8割程度に高める
- 認知症予防に関する事例集・取組の集約に向けたガイドラインの作成
- 認知症予防に関するエビデンスを整理した活動の手引きの作成
- 介護保険給付データベースやCHASEによりデータ収集・分析し、科学的に自立支援や認知症予防等の効果が裏付けられたサービスを国民に提示

③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

- 認知症前期集中支援チームにおける医療・介護サービスにつなげた者の割合65%
- 市町村における「認知症ケアパス」作成率100%
- BPSD予防に関するガイドラインや治療指針の作成、周知
- BPSD予防のための、認知症介護者に対するオンライン教育プログラムの開発、効果検証

④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

- 全市町村で、本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援を働く仕組み(チームオレンジなど)を整備
- 認知症バリアフリー宣言件数、認知症対策件数、認知症対策(認知症バリアフリー宣言、認知症の仕組みの解説動画を制作して発信)
- 本人の意見を踏まえた商品サービスの開発件数(本人の意見を踏まえた開発された商品・サービスの登録制度に関する検討結果を踏まえて数)
- 全預金取扱金融機関(※)の個人預金機関に占める後見制度支援預金又は後見制度支援預金導入済とする金融機関の個人預金預金割合 50%以上(2021年度)
- ネット・IT等の活用促進において「認知症」に関する取組が顕著な事業者・事業者に対しては個人預金取扱金融機関

⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

- 認知症のバイオマーカーの開発・確立(POC取得3件以上)
- 認知症発症抑制のための技術・サービス・機器等の評価指標の確立
- 日本発の認知症の夜間急診率低下の治験開始
- 薬剤治療に認知症対応できるコホートを構築

認知症の人や家族の視点を重視

上記1～5の施策は、認知症の人やその家族の意見を踏まえ、立案及び推進する。

※1:新編・拡充施策

※3 認知症の発症遅延や発症リスク低減 ※4 重症化予防、機能維持、行動・心理症状の予防・対応

期間：2025年まで

1 国や市の認知症施策に関する動向等

(2) 介護保険法（地域支援事業）

- ・ 実施主体を介護保険の保険者（市区町村）として、認知症施策を含めた、いわゆる「地域包括ケアシステム」構築のために必要な事業等が記載。

・ 同法上「認知症総合支援事業」として、

- ◎ 認知症初期集中支援推進事業
- ◎ 認知症地域支援・ケア向上事業
 - ・ 認知症地域支援推進員に関する事 など
- ◎ 認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業
 - ・ チームオレンジに関する事 など

「任意事業」として、

- ◎ 家族介護支援事業
- ◎ 認知症サポーター等養成事業 など

が実施事業として示されている。

1 国や市の認知症施策に関する動向等

(3) 介護保険・高齢者福祉総合事業計画（小金井市地域包括ケア推進計画）

- ・ 11ある基本施策の1つとして「認知症施策の更なる推進」を記載。同施策中、①～③の取り組みごとに主な関連事業を記載。

① 認知症施策の推進と理解の醸成

- ◎ 認知症の理解促進（認知症サポーターの養成、チームオレンジの整備）

② 認知症のケア・医療の充実

- ◎ 認知症の相談支援体制の充実（認知症地域支援推進員の配置）
- ◎ 認知症の早期診断・早期対応の充実（初期集中支援事業、認知症検診）

③ 認知症の方と家族を支える地域づくり

- ◎ 地域の居場所づくり（認知症カフェ等）の充実（認知症カフェの設置）
- ◎ 認知症による行方不明高齢者の早期発見（GPS発信機の貸与、見守りシール）

2 市の高齢者人口・認知症有病者等推計

		令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)	令和32年 (2050)
人口		126,492	127,822	127,668	126,809	125,251	123,321
高齢者人口		27,251	29,294	31,746	34,114	35,848	36,998
(高齢化率)		21.5%	22.9%	24.9%	26.9%	28.6%	30.0%
認知症 有病者	有病率一定 と仮定	5,041	5,917	6,794	7,062	7,313	7,807
	(有病率)	18.5%	20.2%	21.4%	20.7%	20.4%	21.1%
	有病率上昇 と仮定	5,450	6,591	7,810	8,392	8,998	9,989
	(有病率)	20.0%	22.5%	24.6%	24.6%	25.1%	27.0%

【引用元】

※ 人口・高齢者人口は「小金井市人口ビジョン（令和3年5月策定）」

※ 認知症有病率は、「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学 二宮教授）」

3 これまでの主な検討経過・実績等について

- (1) 認知症ケアパス（認知症安心ガイドブック）の策定・改訂
- (2) キッズ認サポに関する拡充
 - ・ 令和元年度2校→令和4年度：5校
- (3) 認知症施策に関する普及啓発に関する提案
 - ・ 世界アルツハイマーデーに合わせて市役所・図書館等で展示スペースを設置
- (4) 認知症施策に関する普及啓発活動内容の調整
 - ・ お元気サミットの事業内容の決定
- (5) 地域の居場所づくり（認知症カフェ等）に関する提案
 - ・ さくら体操会場での要介護者の受入態勢の整備、認知症カフェの増設

令和4年度における認知症関連事業の実施実績

No.	項目	目標値 ^{※1}	実施内容	達成 ^{※2} 度合	成果 ^{※3}	備考欄
1	認知症地域支援推進員連絡会	令和5年度 認知症相談窓口 認知度50% ↓ 月1回実施	○各地域包括支援センターに推進員を配置。市と推進員とで月に1回認知症関連事業に関する協議を行う。 ○相談窓口の認知度向上へ向けた検討を行う。	A	○市と推進員とで情報共有、各種事業の検討を行っている。 ○4月から毎月対面にて開催した。	
2	認知症地域支援推進員連絡会 ワーキンググループ	月1回実施	○推進員同士が月に1回認知症関連事業に関する協議を行う。 ○相談窓口の認知度向上へ向けた検討を行う。	A	○推進員同士の情報共有、各種事業の検討を行っている。 ○4月から毎月対面にて開催した。	
3	認知症施策事業推進委員会	年2回実施	○認知症の方本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるとともに、その家族が安心できるよう、引き続き認知症施策について、検討・推進する。	A	○第1回：令和4年6月8日（Web及び対面） ○第2回：令和5年2月22日（Web及び対面）	
4	認知症連携会議	年1回実施	○新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の動向を見定めながら、事例検討等を交えた多職種の連携強化を図る研修等を実施する。	A	○実施日：令和5年2月15日（Web開催） ○内容：認知症検診事業、認知症初期集中支援事業における事例検討 ○参加者数：52人	
5	認知症検診	受診率 近隣他市同等	○認知症に関する正しい知識の普及啓発を進めるとともに、早期発見・早期対応を図る。	B	○実施期間：（70～74歳）令和4年6月1日～令和4年12月28日、（75～79歳）令和4年9月1日～令和5年3月31日 ○検診実施機関数：17医療機関 ○受診数：65人 ○受診券等送付数：11,705通 ○受診率：0.6%	
6	認知症初期集中支援事業	相談件数 年3件	○認知症が疑われるものの医療等の支援を受けていない市民を対象に、専門職によるチームで訪問し、支援を行う。	A	○3件	
7	認知症サポーター養成講座	令和5年度 8,150人 ↓ 令和4年度中 650人増	○認知症について正しく理解し、出来る範囲で支援する「認知症サポーター」の養成講座を実施する。	A	○参加者数：822人 （内訳はNo.8～No.12のとおり）	
8	市民向け（定期開催）	年3回実施 （30人）	○高齢者の介護を担う世代へ向けての取組を検討していく。	A	○第1回：6月4日 17人 ○第2回：9月17日 6人 ○第3回：2月15日 7人	
9	ステップアップ講座	年1回実施	○受講後の受講者活用に向けた検討を行う。	A	○3月17日 20人	
10	キッズ認サポ	5校 （500人）	○既存の実施校に加え、受入先増加へ向けた調整を行う。	A	○緑小：9月17日 129人 ○南中：1月23日 133人 ○二小：2月10日 85人 ○東小：3月2日 102人 ○一中：3月2日 155人	
11	市職員向け	年2回実施 （40人）	○未受講者へ向けたアプローチを行う。	A	○第1回：7月27日 35人 ○第2回：1月18日 28人	
12	その他	80人	○高齢者の見守り協定を締結済みの事業者等の受講に向けたアプローチを行う。	A	○住民（4回分）：57人 ○企業・団体（4回分）：28人 ○介護者サービス（2回分）：20人	
13	認知症講演会	年1回実施	○コロナの動向を見定めながら、市民への普及啓発事業について検討を行う。	A	○実施日：令和4年11月10日（お元気サミット介護みらいフェス） ○内容：（第一部）のぞみメモリークリニック木之下院長による講演、（第二部）認知症本人と支援者によるパネルディスカッション ○参加者数：44人	

No.	項目	目標値※1	実施内容	達成度※2	成果※3	備考欄
14	やすらぎ支援事業	訪問回数 100回	○軽度の認知症状がある高齢者にボランティアが訪問し、話し相手、声掛け等の援助を行う。 ○コロナの動向を見定めながら、支援員の交流会の実施可否について検討を行う。	A	○やすらぎ支援連絡会：(第1回)5月16日、(第2回)1月19日 ○支援員数：8人 ○利用者数：12人 ○訪問数：104回(電話による傾聴43回を含む。)	
15	家族介護継続支援事業	参加者数 (115人)	○認知症高齢者を介護する家族に対する交流会や講習等の機会を設け、情報共有や身体的・精神的負担軽減を図る事業を実施する。	B	○参加者数 114人 (内訳はNo.16~No.18のとおり)	
16	まなぶ・語る・つながる ～家族の会～	参加者数 (30人)	○ひがし地域包括支援センターへの委託事業 ○偶数月の第2土曜日に実施する。	B	○第1回：4月9日 0人 ○第2回：6月11日 3人 ○第3回：8月13日 6人 ○第4回：10月8日 7人 ○第5回：12月10日 6人 ○第6回：2月18日 6人	
17	認知症家族の集い	参加者数 (25人)	○緑寿園ケアセンターへの委託事業 ○年5回実施する。	B	○第1回：5月7日 5人 ○第2回：7月2日 3人 ○第3回：10月1日 2人 ○第4回：12月3日 4人 ○第5回：3月4日 4人	
18	認知症高齢者を支える家 族の集い	参加者数 (60人)	○本町高齢者在宅サービスセンターへの委託事業 ○毎月第1土曜日に実施する。	A	○第1回：4月2日 2人 ○第2回：5月7日 4人 ○第3回：6月4日 5人 ○第4回：7月2日 11人 ○第5回：8月6日 3人 ○第6回：9月3日 3人 ○第7回：10月8日 15人 ○第8回：11月5日 6人 ○第9回：12月3日 2人 ○第10回：1月7日 8人 ○第11回：2月4日 5人 ○第12回：3月4日 4人	
19	家族介護継続支援事業担 当者連絡会	年2回実施	○上記3事業の担当者連絡会を開催	A	○第1回：6月2日 ○第2回：2月24日	
20	認知症チェックシステム	アクセス数 4,500件	○早期発見及び普及啓発を図るため、認知症の初期スクリーニングシステムを運用する。 ○市報等に掲載し、周知を図る。	A	○アクセス数：6,448件	
21	見守りシール事業	令和5年度 10人 ↓ 令和4年度中 2人増	○市報、ホームページ等により周知を図る。 ○コロナの動向を見定めながら、搜索模擬訓練の実施に向けた検討を行う。	A	○搜索模擬訓練実施数：5回(貫井けやき公園4回、梶野公園1回) ○新規登録者数：2人 ○アプリ登録者数：16人	
22	徘徊高齢者探索サービス	令和5年度 貸与件数14件 ↓ 年度末利用者数 9件	○市報、ホームページ等により周知を図る。	B	○警備員派遣 新規：0人 利用者数：0人 ○保険付帯 新規：5人 利用者数：6人	○警備員派遣については、委託事業者から、現行のサービスを令和4年3月末で終了する旨の連絡があり、新規受付を終了するとともに、経過措置として現在サービスを利用中の場合に限り、令和5年3月末までサービスの継続を可能としている。
23	認知症予防の通いの場	年2回実施	○認知症検診受診者の受け皿として、認知症予防、居場所づくりの場として開催をしていく。	A	○第1回：7月15日 7人 ○第2回：11月15日 8人	
24	チームオレンジの設置に向け た検討【新規】	一体的支援の実施 (年1回)	○本人・家族がともに活動する時間を設け、他の家族や地域との交流を行う一体的支援事業を実施する。運営にはボランティア等に関わってもらい、チームオレンジ設置の足掛かりとする。	A	○実施日：令和4年10月18日 ○内容：音楽鑑賞・合唱、回想法 ○参加者数：4組7人	

No.	項目	目標値※1	実施内容	達成度合※2	成果※3	備考欄
25	認知症カフェ	令和5年度 11か所 ↓ 年24回実施	○各圏域ごとに実施する。	A	○きた「桜町オレンジカフェ」 第1回：4月16日 23人 第2回：5月21日 25人 第3回：6月25日 18人 第4回：7月30日 16人 第5回：9月17日 20人 第6回：10月15日 22人 第7回：11月26日 25人 第8回：12月17日 19人 第9回：1月21日 13人 第10回：2月25日 21人 第11回：3月18日 21人 ○みなみ「にしの台カフェ」 第1回：5月24日 13人 第2回：7月26日 15人 第3回：9月27日 13人 第4回：11月22日 13人 第5回：1月24日 13人 第6回：3月28日 10人 ○みなみ「ミニカフェ」 第1回：4月26日 2人 第2回：6月28日 2人 第3回：8月23日 2人 第4回：10月26日 1人 第5回：12月20日 未実施 第6回：2月28日 2人 ○ひがし「なごみカフェ」 第1回：6月22日 2人 第2回：9月28日 7人 第3回：12月21日 8人 第4回：3月15日 3人 ○ひがし「ひだまりカフェ」 第1回：4月23日 5人 第2回：5月28日 8人 第3回：6月25日 7人 第4回：7月23日 6人 第5回：9月24日 4人 第6回：10月22日 9人 第7回：11月26日 8人 第8回：12月24日 9人 第9回：1月28日 10人 第10回：2月25日 7人 第11回：3月25日 15人 ○にし「花物語カフェ」 第1回：5月22日 10人 第2回：7月24日 未実施 第3回：9月25日 7人 第4回：11月27日 11人 第5回：1月29日 8人 第6回：3月26日 17人	
26	研修・その他	—	○適宜研修等に参加する。 ○世界アルツハイマーデーに合わせた展示等を行っていく。	—	○世界アルツハイマーデーに合わせた展示 第二庁舎：9月12日～9月22日 図書館：9月12日～9月22日 ○お元気サミット・介護みらいフェス 小金井 宮地楽器ホール ：11月10日・11日	

※1 は、第8期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画で示す目標値
 は、市にて単年度目標として設定した目標値

※2 「A」：目標値を達成している。
「B」：目標値を達成していないが、事業は進捗している。
「C」：目標値を達成しておらず、事業進捗が見られない。

令和 5 年度における認知症関連事業の実施予定

No.	項目	目標値※1	実施内容
1	認知症地域支援推進員連絡会	令和 5 年度 認知症相談窓口 認知度 50% ↓ 月 1 回実施	○各地域包括支援センターに推進員を配置。市と推進員とで月に 1 回認知症関連事業に関する協議を行う。 ○相談窓口の認知度向上へ向けた検討を行う。
2	認知症地域支援推進員連絡会 ワーキンググループ	月 1 回実施	○推進員同士が月に 1 回認知症関連事業に関する協議を行う。 ○相談窓口の認知度向上へ向けた検討を行う。
3	認知症施策事業推進委員会	年 2 回実施	○認知症の方本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるとともに、その家族が安心できるよう、引き続き認知症施策について、検討・推進する。
4	認知症連携会議	年 1 回実施	○事例検討等を交えた多職種の連携強化を図る研修等を実施する。
5	認知症検診	受診率 近隣他市同等	○認知症に関する正しい知識の普及啓発を進めるとともに、早期発見・早期対応を図る。
6	認知症初期集中支援事業	相談件数 年 3 件	○認知症が疑われるものの医療等の支援を受けていない市民を対象に、専門職によるチームで訪問し、支援を行う。
7	認知症サポーター養成講座	令和 5 年度 8, 150 人 ↓ 令和 5 年度中 650 人増	○認知症について正しく理解し、出来る範囲で支援する「認知症サポーター」の養成講座を実施する。
8	市民向け（定期開催）	年 3 回実施 （30 人）	○高齢者の介護を担う世代へ向けての取組を検討していく。
9	ステップアップ講座	年 1 回実施	○受講後の受講者活用に向けた検討を行う。
10	キッズ認サポ	5 校 （500 人）	○既存の実施校に加え、受入先増加へ向けた調整を行う。
11	市職員向け	年 2 回実施 （40 人）	○未受講者へ向けたアプローチを行う。
12	その他	80 人	○高齢者の見守り協定を締結済みの事業者等の受講に向けたアプローチを行う。
13	認知症講演会	年 1 回実施	○市民への普及啓発事業について検討を行う。
14	やすらぎ支援事業	訪問回数 100 回	○軽度の認知症状がある高齢者にボランティアが訪問し、話し相手、声掛け等の援助を行う。 ○支援員の交流会を行う。

No.	項目	目標値※1	実施内容
15	家族介護継続支援事業	参加者数 (115人)	○認知症高齢者を介護する家族に対する交流会や講習等の機会を設け、情報共有や身体的・精神的負担軽減を図る事業を実施する。
16	まなぶ・語る・つながる ～家族の会～	参加者数 (30人)	○ひがし地域包括支援センターへの委託事業 ○偶数月の第2土曜日に実施する。
17	認知症家族の集い	参加者数 (25人)	○緑寿園ケアセンターへの委託事業 ○年5回実施する。
18	認知症高齢者を支える家族の集い	参加者数 (60人)	○本町高齢者在宅サービスセンターへの委託事業 ○毎月第1土曜日に実施する。
19	家族介護継続支援事業担当者連絡会	年2回実施	○上記3事業の担当者連絡会を開催
20	認知症チェックシステム	アクセス数 4,500件	○早期発見及び普及啓発を図るため、認知症の初期スクリーニングシステムを運用する。 ○市報等に掲載し、周知を図る。
21	見守りシール事業	令和5年度 10人 ↓ 令和5年度中 2人増	○市報、ホームページ等により周知を図る。 ○検索模擬訓練を行う。
22	徘徊高齢者探索サービス	令和5年度 貸与件数14件 ↓ 年度末利用者数 14件	○市報、ホームページ等により周知を図る。
23	認知症カフェ	令和5年度 11か所 ↓ 年24回実施	○各圏域ごとに実施する。
24	認知症予防の通いの場	年2回実施	○認知症検診受診者の受け皿として、認知症予防、居場所づくりの場として開催をしていく。
25	チームオレンジの設置に向けた検討	一体的支援の実施 (年4回) 検討	○本人・家族がともに活動する時間を設け、他の家族や地域との交流を行う一体的支援事業を実施する。運営にはボランティア等に関わってもらい、チームオレンジ設置の足掛かりとする。 ○先進事例情報収集やステップアップ講座受講者の活動の場の検討等を通じて、チームオレンジ設置に向けた検討を行う。
26	研修・その他	—	○適宜研修等に参加する。 ○世界アルツハイマーデーに合わせた展示等を行っていく。

※1 は、第8期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画で示す目標値
 は、市にて単年度目標として設定した目標値

チームオレンジについて

参考資料

チームオレンジとは

【背景】

認知症サポーターから一歩進んで、認知症カフェやサロンを開いたり、傾聴や見守りなどの活動を自主的に行っているサポーターが誕生



こうしたサポーターの任意の活動を尊重しつつ、認知症の人や家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぎ、
認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりの具体的活動
= 「チームオレンジ」

【チームオレンジの定義（三つの基本）】

- ① ステップアップ講座修了のサポーターでチームが組まれている。
- ② 認知症の人もチームの一員として参加している。
- ③ 認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる。

チームオレンジ清瀬視察

チームオレンジ設置に向けて、先進事例の情報収集として令和5年4月13日（木）に視察を行った。視察結果は下記のとおり。

チームオレンジ清瀬概要

- 活動日時 : 毎週木曜日 10時～15時
- 活動場所 : 中清戸オレンジハウス（チーム員所有の空き家を活用）
- 活動内容 : カフェ（参加者同士のおしゃべり）が中心で、不定期で音楽・けん玉・クリスマス等のイベントを開催
- チーム員数 : 37人
- 参加者数 : 約15人／回
- その他 : ・令和3年6月から活動開始に向けたミーティングを重ね、令和4年4月から活動を開始
・認知症当事者の方が多く参加し、通いの場となっているが、大半が認知症疾患医療センター（複十字病院）からの紹介
・チーム員も高齢であるため、継続性は課題

中清戸オレンジハウス

～チームオレンジ清瀬～



主催 清瀬市生涯健幸部介護保険課地域包括ケア係
共催 チームオレンジ清瀬



玄関や坪には花が飾られ明るい雰囲気です



思わず「ただいま」と言いたくなるような
なつかしい玄関です



チームオレンジ清瀬チーム員との交流



1階リビング



ロバの看板が自印です

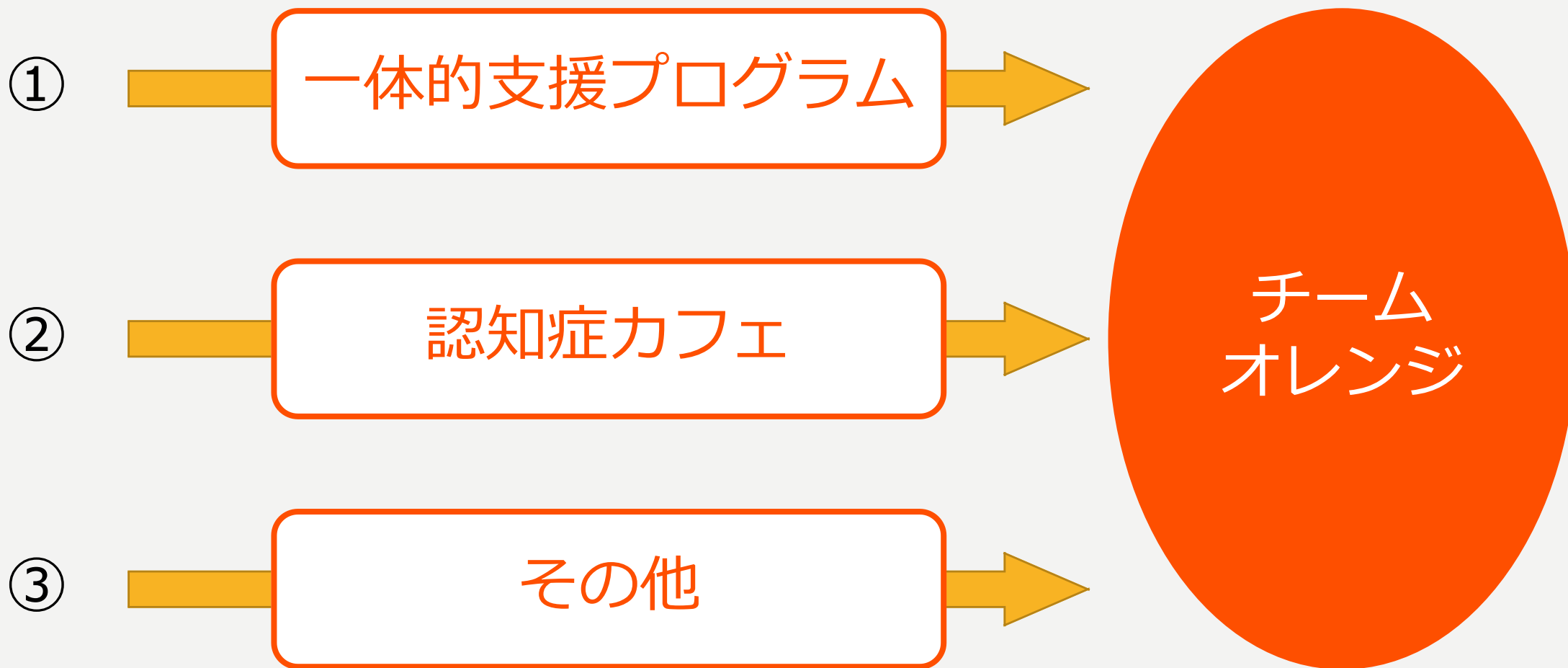


2階

中清戸オレンジ
ハウスに常駐す
るチーム員は、
認知症の方や介
護している方の
話し相手などの
継続支援活動を
行っている。

認知症サポーターステップアップ講座 受講者の今後の活動

令和7年度までに



認知症サポーターステップアップ講座 受講者説明会

認知症サポーターステップアップ講座受講者の今後の活動に関する説明及び意見交換を令和5年5月15日（月）に行った。概要は下記のとおり。

受講者説明会概要

- 開催日時 : 令和5年5月15日（月）
- 対象 : 令和3年度及び4年度ステップアップ講座受講者
- 参加者数 : 19人
- 内容 : (1)チームオレンジに関する説明
(2)今後の活動場所に関する説明
(一体的支援プログラム・認知症カフェ)
(3)自己紹介・意見交換
- その他 : 何をして良いかわからないが、認知症の方の支援をしたい方や認知症に関する知識を深めたいと考えている方が多い

認知症サポーターステップアップ講座 受講者説明会



認知症講演会について

1 令和5年度認知症講演会について

市主催の地域包括ケアシステム普及啓発イベントであるお元気サミットにて認知症講演会を行う。

- (1) 日時 令和5年11月8日（水）又は9日（木）の午前又は午後（2時間程度）
- (2) 会場 小金井 宮地楽器ホール 小ホール（最大150席収容）

2 お元気サミットについて

お元気サミットの来場者数や属性については、別紙「令和4年度お元気サミット・介護みらいフェスアンケート集計結果」参照

3 過去の認知症講演会内容

年度	テーマ	講師（敬称略）
H26	認知症の理解と対応	杏林大学医学部附属病院 長谷川 浩
H27	知って得する！認知症の話	杏林大学医学部附属病院 長谷川 浩
H28	・東京都認知症疾患医療センターについて ・地域の入院施設について	・桜町病院 寺田 久子 ・武蔵野中央病院 牧野 栄一郎
H29	・若年性認知症 ・認知症って何ですか？	・若年性認知症総合支援センター 来島 みのり ・樋口 直美（当事者）
H30	今までの生き方を続けるために	㈱LYXIS 飯塚 裕久
R1※	認知症とともに生きる ～認知症になったら終わりなんて言わせない～	丹野 智文（当事者）
R4	認知症講演会	のぞみメモリークリニック 木之下 徹

※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度はテーマや講師を決定後に中止、令和2年度・令和3年度も中止

令和4年度お元気サミット・介護みらいフェスアンケート集計結果

問1

●年齢

選択肢	人数	回答率
20歳未満	0	0.00%
20代	5	3.65%
30代	1	0.73%
40代	16	11.68%
50代	29	21.17%
60代	26	18.98%
70代	39	28.47%
80代	15	10.95%
90歳以上	5	3.65%
未回答	1	0.73%
計	137	100.00%

参加者数：211
回答率：64.93%

●性別

選択肢	人数	回答率
男	32	23.36%
女	103	75.18%
そのほか	0	0.00%
未回答	2	1.46%
計	137	100.00%

●お住まい

選択肢	人数	回答率
小金井市内	105	76.64%
小金井市外	31	22.63%
未回答	1	0.73%
計	137	100.00%

●どのような立場の方ですか？

選択肢	人数	回答率
一般来場者	85	62.04%
出展・出演者	0	0.00%
医療・介護事業所職員	19	13.87%
自治体職員	6	4.38%
地域包括支援センター職員	9	6.57%
その他	16	11.68%
未回答	2	1.46%
計	137	100.00%

●本事業を何で知りましたか？（複数回答可）

選択肢	人数	回答率
チラシ	58	36.25%
市報	27	16.88%
出展者・出演者からの紹介	17	10.63%
友人・知人に誘われて	14	8.75%
地域包括支援センターからの紹介	28	17.50%
その他	11	6.88%
未回答	5	3.13%
計	160	100.00%